

「人と自然の共生」に向けた、あいちのコラボレーション

あいち生物多様性戦略2020

~愛知目標の達成に向けて~

平成25年3月



COP10の歴史的な成果

2010（平成22）年10月に「いのちの共生を未来に」をテーマに生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知・名古屋で開催され、歴史的な成果を得ることができました。そのひとつが、今後10年間に国際社会が生物多様性の保全と持続可能な利用を進めていくための世界目標である「戦略計画2011～2020（愛知目標）」が採択されたことです。



戦略計画2011～2020 (愛知目標 "Aichi Target")

長期目標(Vision) 2050年

"Living in harmony with nature"
「自然と共生する」世界

短期目標(Mission) 2020

生物多様性の損失を止めるために、
効果的かつ緊急な行動を実施する

5つの戦略目標と 20の個別目標



愛知県環境部自然環境課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話(052)954-6475 (ダイヤルイン) FAX(052)963-3526

掲載した地図は、国土地理院の以下の地図を使用した。
数値地図25000(空間データ基盤)「愛知」
・国土地形情報(行政区別・土地利用細分マッシュ)

基本目標

「人と自然が共生するあいち」の実現
様々な立場の人々が、生物多様性への意識を高め、そのコラボレーション（協働）によって生きものがすむ場所が確保され、本来、その場所にいるべき野生の生きものと人が共に生きていくことができるあいちを目指します。これは、本県が目指していく将来の姿であり、常に念頭においておくべき目標です。

目標2020

生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の展開
2020年までに、生物多様性の損失を止めるための効果的で具体的な行動が実施され、その効果が確認できている状態となっていることを目指します。この目標は、様々な立場の人々が、それぞれの得意分野を活かし、コラボレーション（協働）することによって実施します。

本県独自の取組 あいち方式

県民や事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーション（協働）しながら、効果的な場所で生物の生息生育空間の保全・創出の取組を行うことにより、生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら生態系ネットワークの形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する仕組みです。

生態系ネットワーク

土地利用の転換や開発などによって分断され、孤立した自然を保全・再生してつなげ、生態系を回復する取組です。生態系ネットワークの形成は、県民や事業者、NPO、行政といった地域の様々な主体が、それぞれの持つ土地や労力、費用などを提供しあい、コラボレーション（協働）することによって進めます。



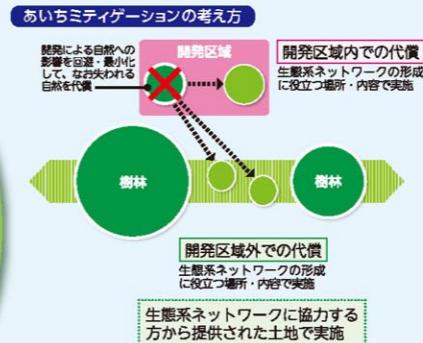
生態系ネットワーク

多様な主体が、地域の協議会などのコラボレーション（協働）により、生物生息生育空間を確保する方法（協議会への参加）



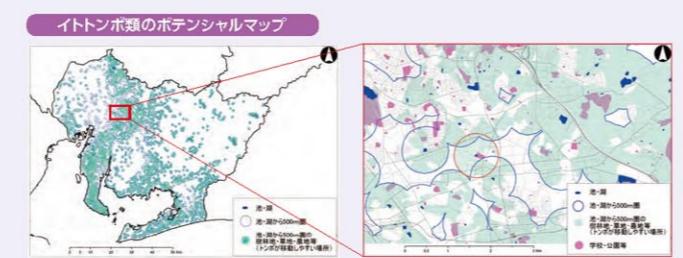
あいちミティゲーション

土地利用の転換や開発などにおいて、自然への影響を回避、最小化した後に残る影響を生態系ネットワークの形成に役立つ場所や内容で代償することにより、開発区域内外のみならず、区域外も含めて自然の保全・再生を促す、本県独自の仕組みです。



推進ツール1 生物多様性ポテンシャルマップ

平成22（2010）年に、本県が日本で初めて作成したマップです。マップには生態系ネットワークの形成において大切と考えられる場所が示されています。地域の様々な主体がマップを確認しながら活動や事業を行うことによって、これまで個々に行われてきた取組が一定の方向に向かい、生態系ネットワークの形成により高い効果が発揮されます。



推進ツール2 あいちミティゲーション定量評価手法

事業や活動などの生物多様性保全の効果を簡単な評価により点数付ける手法です。事業区域や活動区域の面積、環境条件などを選択しながらコンピュータ上で表に入力することにより、評価点が算出されます。

県民や事業者、NPOなどによる生物多様性を保全する活動の成果を点数により「見える化」してアピールできるようになります。

推進ツール3 生態系ネットワークチェックリスト

開発事業やビオトープ創出事業、自然環境管理活動を実施する際に、生態系ネットワークの形成や、生物多様性の保全を推進するために効果的な項目を整理したものです。

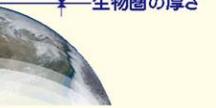
事業や活動を実施する際に、生態系ネットワークチェックリストを用いて取組内容をチェックすることによって簡単に事業や活動の内容をより良くすることができます。

生物多様性の危機

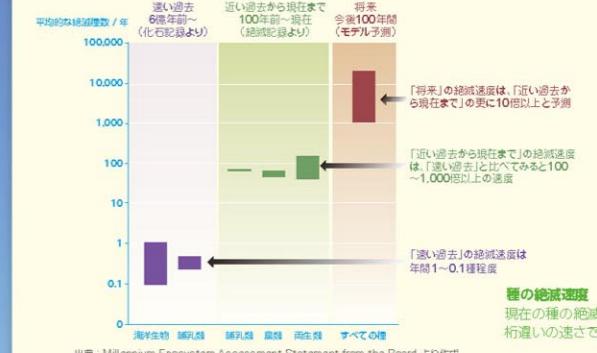
～転換点にある私たちの暮らし～

地球の生物多様性の危機

私たちの暮らしや産業は、多くの生きものが互いに関係を持って生息生育する生態系からの恵みによって成り立っていますが、一方で、私たち人間の活動は生物多様性に負の影響を与えています。その結果、多くの生きものが絶滅し、長い時間をかけてつぐられた生物多様性をこの数百年という極めて短い時間に損なおうとしています。



地球上で生きものが生息生育している場所は、地球表面の厚さ30kmのぎわめて薄い層にすぎません。



1年に採算した地球と生物進化の歴史
約38億年かけてつぐられた生物多様性がこの数百年で大きく損なわれています。



本県においても、生物の生息生育空間の減少が進み、植物680種、動物528種がレッドデータブックあいち2009に掲載されています。

あいちの生物多様性の危機



出典: 昭和40年は愛知県「地自用原土地利用の推移」より、他は愛知県「土地に関する統計年報」より

